

鹿児島医セン

連携室だより

鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）

2007.6 No.15

院内オーダリングシステム稼働のお知らせ

既に多くの病院で院内オーダリングあるいは電子カルテを導入しておられます。当院でも数年前から院内オーダリングシステム導入を検討していましたが、ようやく本年7月より稼働の予定となりました。これにつきましてご紹介と、お願いをしたいと存じます。

1) 医療の安全・質の向上

現代の医療は日々複雑化・先進化し、同時に患者さん及び家族の医療に対する期待度（要求度）も大変高くなっていることから、医療人個々の努力のみで対応できる時代ではなくなっています。医療の安全・質の向上を目指すためには、病院という組織に属する各部門がチームとして、個々の患者さんの診療に取り組むと同時に、コンピューター等の機器を用いた安全確保も必要となっています。患者さんの確認システムとして、バーコードやリストバンドを取り入れ、医療者の目による確認と同時に機械による確認という二重チェックを行うことで、個々の医療行為がより安全にできるようにしたいと思っています。また、現状のカルテを介した患者さんの情報共有に比べ、オーダリングシステムを介することで、患者さんに関係するより広い範囲の医療者による情報共有ができることになり、結果として医療の安全・質の向上につながりたいと思っています。

2) 患者さんへのサービス向上—特に外来予約制について

昨年までに終了した施設整備により、旧病院時代に比べ入院環境はかなり改善できたと思っておりますが、外来患者さんにつきましては待ち時間の問題等ご不便をおかけしています。当院に受診される患者さんは、何らかの検査を必要とされる方が多く、皆さん朝早く受診されています。受診が少し遅れると、診察まで3時間—4時間待ちとなっています。一部の科では予約制をとっていますが、なかなか思い通りにいかない現状があります。また、紹介状持参の新規の患者さんについても、長時間お待たせすることが再々起きています。

そこでオーダリング開始と同時に、再来患者さんの外来予約制を導入することとしました。予約制により、患



オーダリングシステム端末

者さんの病院受診時間を分散させ、また予約患者さんについては再診受付機を利用することで、検査や診察にスムーズに回っていただくことができ、その待ち時間を短縮できるのではと思っています。逆に、予約なしの場合は医事受付となり、検査、診察なども予約患者さんよりも遅くなります。

私どもとしましては、紹介患者さんについても予約制の導入をできればと考えています。当院の地域医療連携室へ、カルテ作成に必要な情報（患者さんの名前、生年月日、住所、保険に関する事項及び紹介状など）を事前にいただくことにより、カルテ作成ができ、診察日、来院時間も決定できますので、ご紹介いただく患者さんの待ち時間も短縮できるかと思っております。ご協力をよろしくお願い致します。

勿論、再診、初診あるいは予約の有無を問わず、様態の悪い患者さんの診察については優先致します。

当院では、7月2日（月曜）からのオーダリングシステム稼働に向け、出席を義務として医師、看護師の操作訓練も実施しています（医師については2時間ずつ3回実施しています）。また、リハーサルも複数回予定し、できるだけスムーズに稼働できるよう努力していますが、稼働当初は思わぬアクシデントにより混乱し、患者さんや医師会の先生方にご迷惑をおかけするかもしれません。何卒、ご高配賜りますようお願い致します。 統括診療部長 花田 修一

職場紹介

東4階病棟

東4病棟は、平成19年4月に心臓血管外科と第一・第二循環器内科・心臓リハビリテーション科の循環器系の混合病棟として再編制され開棟となりました。心臓カテーテルを中心とした手術前後の検査・治療や心臓血管外科系の手術を受ける患者様が安心して療養出来るよう日々努力しています。また、病棟の重要な機能として、ICUの後方支援病棟という役割があります。そのため、重症個室2室、特別室3室に加え、新たに、4床の観察室を2室設置して、毎日、24時間、ICUからの移室を受け入れられるよう、患者様やご家族のご協力のもと、ベッドコントロールを行っています。

開棟後まだ2ヶ月を経過したばかりで、業務改善や環境整理などまだまだ課題が山積みですが、看護の質のレベルアップを目指し、出来ることから少しずつ、問題点を解決する工夫を病棟全体で検討し実施しています。新人看護師5名を含む新採用看護師、配置換え看護師への教育・指導へも力をそそいでいるところです。

スタッフは、心臓血管外科医師、第一・第二循環



器科医師・リハビリテーション科医師と看護師26名、内1名リハビリテーション専任看護師1名と看護業務技術員1名です。また、薬剤師、理学療法士、栄養士、麻酔科医師・手術室やICU看護師・地域医療連携室看護師の患者訪問があります。今後も、多くの病院スタッフの協力・連携のもと、チーム医療の輪を大切にしたい患者様への医療に携わっていきたくと思っています。

東4階病棟師長 米森 篤子

ひとくち 診療メモ

「5分で5%」 平成17年10月から、ようやく日本でも脳梗塞の超急性期にrt-PA（アルテプラゼ）による血栓溶解療法ができるようになりました。アメリカに遅れること10年です。rt-PAにより初めて脳梗塞が急性期治療の対象となり、治療により劇的な効果が認められたことから、

アメリカでは脳梗塞もHeart Attackと同様に超急性期治療の如何によって予後が異なる救急疾患であるとして、“Brain Attack”キャンペーンが行われたのはご存じの通りです。

脳は虚血に対して極めて脆弱なため、脳梗塞発症後速やかに血栓溶解療法を行わなければ効果が望めないのは勿論ですが、虚血によって既に脳細胞が壊死してしまった状態に血栓溶解療法を行うと、再開通した血液が壊死組織内に流入し、その結果脳内に大出血をきたしてしまう危険があります。

従って遅くとも3時間以内に治療を開始する必要がありますが、このためには2時間以内に病院に来る必要があります。

ただ、2時間以内に到着すれば全ての症例に血栓溶解療法が出来るわけではありません。2時間以内に來ても、既に脳梗塞が進んでいて、血栓溶解療法ができない場合もあります。これはCTスキャンで判断するわけですが、病院への到着が5分遅れれば、治療できる可能性が5%減るとされています。

また治療効果の面からも、早く治療を開始すれば、それだけ良くなる可能性が増します。治療の開始が5分遅れれば、よくなる可能性が5%減ります。

従って、とにかく一刻も早く受診することが必要ですので、機会がありましたらご配慮の程宜しく御願い致します。

(脳血管内科部長 濱田陸三)

新new任 紹face介



脳血管内科医長

はしぐち よしや
橋口 良也

平成6年に鹿児島大学医学部を卒業し、鹿児島大学医学部第3内科(神経内科)に入局しました。熊本市立熊本市市民病院、済生会熊本病院、国立循環器病センターで脳卒中の勉強をした後に、平成19年3月まで厚地脳神経外科病院に勤務してありました。この度、4月1日付で当院脳血管内科に勤務させて頂くことになりました。ようやく当院のシステムにも慣れてきたところですが、少しでも鹿児島の脳卒中診療に貢献できるように頑張りたいと思います。よろしくお願い致します。



脳神経外科医師

あわ りゅうし
栗 隆志

平成14年に鹿児島大学を卒業し、鹿児島大学医学部脳神経外科に入局致しました。このたび、平成19年4月より当院脳神経外科で勤務させて頂くこととなりました。当院脳卒中センターは、症例も豊富で非常にやりがいがあります。また脳神経内科の先生方と共に診療にあたっておりますので、内科の先生方の技術や知識も学ばせて頂いております。

御迷惑をおかけすることもあると思いますが、何卒宜しくお願い申し上げます。



泌尿器科医師

ちよまる たけし
千代丸 剛

平成12年に鹿児島大学医学部を卒業し、同年鹿児島大学医学部泌尿器科に入局。鹿児島大学病院、鹿児島市立病院、今給黎総合病院など7ヶ所の病院を勤務してまいりました。このたび、平成19年4月より当院泌尿器科へ勤務させて頂くこととなりました。数々の病院での経験を活かし、特に泌尿器科系手術・血液浄化療法等に力をいれ、患者様のために日々精進していく所存であります。



リハビリテーション科(心大)医長

つるかわ としひろ
鶴川 俊洋

平成7年に鹿児島大学医学部を卒業し、同大学リハ医学講座に入局。リハ専門病院での出張勤務を経て、平成14年10月に埼玉医科大学リハ医学教室助手として赴任し、17年3月まで講師として勤務しました。17年4月に帰鹿後、18年3月に鹿児島大学リハ医学講座を退局、19年4月より当院に赴任することとなりました。二つの大学講座での勤務経験を活かし、当院でのリハ医療に貢献していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。



麻酔科医長

よねたに あらた
米谷 新

4月から麻酔科医師として勤務させて頂くことになりました。前勤務先は県立大島病院でした。当院は8年前にレジデントとしてお世話になり今回が2度目となりますが、以前と比べて建物が大きくなり手術室も広がっていて、まだ戸惑うことも多くあります。安全に事故のない麻酔を心がけていきますので、これからよろしくお願いたします。



内科レジデント

みずかみ きょうこ
水上 恭子

平成15年に鹿児島大学医学部を卒業し、鹿児島大学(旧)第二内科に入局、この度4月1日より血液内科レジデントとして勤務することとなりました。今までは一般内科で働いていましたが、今年から血液内科を勉強することとなりました。何分初めてのことだらけなのでいろいろご迷惑をおかけすることが多いと思いますが、がんばっていきたく思いますのでよろしくお願いたします。

登録医医療機関紹介 第3回

● 医療法人浩然会 指宿浩然会病院

当院は昭和42年10月に開院し、今年で40年を迎えます。「浩然会」とは孟子の「浩然の気を養う」から引用したもので、指宿という自然に恵まれた地域で、自然の治癒力に包まれながら医療を行うのに最適な名前だと思います。

ベッド数138床(一般病床：27床、療養病床：111床)のケアミックスの病院で職員数は206名です。地域医療の一翼を担う為に救急・急性期医療、それに慢性期、在宅医療と多岐に渡って日々努力しています。平成17年1月に病院機能評価を取得し院内のまとまり、組織の充実さが一段と向上しました。医療安全だけでなく、NSTや院内感染対策など17の委員会が活動しています。(委員会が多いことが良いことかどうかは別ですが・・・)5年前から毎年10月に院内研究発表会を開催し、院内の各部署から10を超える研究が発表され、熱気に満ちた討論が行われています。

当地も皆様のところと同じように、老人比率が高く、心筋梗塞などの心疾患や脳血管障害が多く発症しています。救急医療に関しては、医師会で夜間・休日輪番体制を作り、指宿病院(旧国立指宿病院)を中心に連携を取っています。

当院も365日・24時間体制で救急医療を行ってきました。しかし医療の高度化に伴い当院・

当地ではどうしようもないケースが増えてきました。患者様やご家族の希望で鹿児島市内の病院に転送・転院することが多くなりました。平成18年度だけでも50を超える患者様を鹿児島医療センターにお願いしています。心苦しく思いながらも昼夜を問わず無理なお願いをし、それを快く引き受けていただき非常に感謝しています。これからも病・病連携をしっかりとおこない、鹿児島医療センターの力を借りながら、当地の救急・急性期医療に貢献し、さらに急性期を過ぎた亜急性期や回復期の患者様の受け皿になれるように努力したいと思います。

大重太真男



登録医医療機関紹介のコーナーを始めました

掲載希望の医療機関はご連絡下さい。

お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター (循環器・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099 (223) 1151 FAX 099 (226) 9246

<http://www.kagomc.jp>

脳卒中ホットライン ▶▶ 090-3327-5765

(地域医療連携室) 濱田、大渡、平田、中島、田添、池上、善福

直通電話 ▶▶ 099-223-4425

フリーダイヤル専用FAX ▶▶ 0120-334-476

※休日・時間外は当直者で対応します。

